

こだわりを押さえて描画に取り組む子をめざして
—色彩指導を重点にして—

松本洋介

1 対象児のプロフィール

生徒名 K・K(男) 昭和47年6月29生

(中学部1年) IQ44(WISC)

自閉症 斜視

(1) 一般的特性

自閉症児特有の固執性が強い。勝手な単独行動が目立ち根気、集中力もなく作業が長続きしない。牛乳パックの日付の位置やテレビのチャンネルにこだわる。又コマーシャルや商品名に異常な興味、関心を示す。知的能力はかなりあって、漢字も読むことができるが生活に直結しないものが多い。身辺自立は一応できているがシャツが出ているなど雑なことが多い。

(2) 問題点と研究に取り上げた理由

本児は自閉症児であるが、学校生活を通して最もよく目立つのは単独行動である。そのために集団生活にうまく適応できないことが多い。この単独行動の原因として自閉児特有のこだわりがあるのではないかと考えた。この点が少しでも改善できたら知的学習も可能な本児の将来の社会的自立に希望が持てるのではないかと考えた。その方法として描画の学習(特に色彩指導を重点にして)の中で、対象の色を特定の色にこだわることなく正しく色彩をとらえて描く指導を通して、少しでもこだわりを少なくしていこうと考え取り組んできた。

2 指導の重点と方法

K児が描画に取り組む際に特定の色へのこだわりが大きく影響しているようである。そこでK児の描画指導においては次のような点に重点を置いて指導することにした。

- (1) 不安感や緊張を取り除き、安定した気持ちで取り組めるようにする。
- (2) 特定の色への固執が強いときには、その色を使うことを認めてやりながら、余々に他の色への転換を図っていく。
- (3) 特定の色に偏らないようクレパスは必ず全色出しておくようにさせる。

3 指導実践例

(1) 事例1「春の運動会の絵」の指導を通して

《1》 K児の様子

中学部に入って初めての絵である。運動会の種目の中から何を描くか話し合った結果、K児は百メートル走を描くことにした。クレパスの中から黄土色を取り出すとグランドをぬり出し、ぬり終わると持っている黄土色で人物を絵がき出した。体も服も全部黄土色である。服の色は何色だったか尋ねても聞こうとせず、ひたすら黄土色でぬり続ける。他の色を使うように言うが強く拒絶し黄土色だけ残して他のクレパスを机の中にしまってしまった。



《2》 指導の手だてとK児の変化

強く黄土色にこだわるK児に次のような手だてを試みた。

- * 絵を描く意欲を失わせないようにこだわりを強く否定せず一応認めた。
- * 絵にひとくぎりつき気分が落ち着いたところでどんな服を着ていたか思い出させた。
- * 実物の服を見せ色を言わせた。

その結果黄土色一色だった人物のシャツを赤に、ズボンに青にぬり出した。実際の色とは異なるがこだわりを押し返して描こうとする態度が少しではあるが見られた。

(2) 事例2「臨海学校の絵」の指導を通して

《1》 K児の様子

臨海学校の中で海で泳いでいるところを描くことに決めた。海を描くと言い、クレパスの中から桃色を取り出すと画面左上の方を桃色でぬり出した。続いて赤を取り出し人物を赤でぬり出した。桃色の海、赤い人間はおかしいと言っても海はピンクだと言ってきかず、無理に描きなおさせようとするとパニックになりかけたのであまりしつこく言わないようにした。



《2》 指導の手だてとK児の変化

* 気分が落ち着いていないのでまず好きな話題を話しかけたりして気分
の安定をはかった。

* 海の描いてある本を見せ海の色を確かめさせた。

* 何を身につけて泳いでいたのか思い出させた。

その結果数分後に海は青と言いながら桃色でぬった部分の上から青を
ぬり出した。又全身が赤一色の人物には青の水着を描き加えた。

(3) 事例3「交流遠足の絵」の指導を通して

《1》 K児の様子

湖山小学校との交流遠足で子どもの国のことをみんなが描くことにし
た。その中でK児は綱引き大会の様子を描くことにした。クレパスの中
から赤を取り出すと綱を描き出した。赤
い綱だったか尋ねると赤だと答えてその
まま描き続けた。次に黒のクレパスで人
物を描き出したがこれまでの人物に比べ
厚みのある人間らしい人物を描いたが、
人物の顔を赤でぬり出したのでどんな色
の顔をしていたのか尋ねると赤だと答えてそのままぬり続けていた。



《2》 指導の手だてとK児の変化

* 自分の顔や友達の色を見させ、クレパスのどの色に一番よく似ている
か見させた。

* 綱はどんな色をしていたか思い出させた。

その結果赤一色にぬりつぶしていた顔を肌色にぬり、目、鼻、口を描
き加えた。又線で描かれていた手を幅のある手に描き変えた。

4 描画指導を通してのK児の変化

こだわりを押さえながら描画に取り組む指導を通してK児の日常生活の面
でも少しずつ変化が見られた。一学期の頃は学習中に飛行機の飛び立つ音が
聞こえると、必ず席を立て中庭の方に行ったり、当てられる順番がきにい
らないと大きな声を出して教室の中を走ったりするようなことが度々見られ
た。

又学級のみんなが一緒に掃除をしていたり、遊んだりしている時にも独りだけ別行動をしていることがよく見られた。しかし、二学期の終わり頃から少しずつ物事に対するこだわりの度合が弱まり、学習中などに単独行動をすることが減ってきた。以前よく見られたこだわりの中で、日直に対するこだわり、牛乳パックの日付の位置に対するこだわり、丸椅子に対するこだわりなどは現在は殆どなくなっている。そしてたとえ何かにこだわったとしても、それほどこだわりは強くなくこだわりが否定されてもパニックのような状態になることはあまり見られないようになってきている。

5 K児の描画と日常のこだわり

	使用された色●	描かれた人物○	1 2 3 4 5 6 7 8 9	描画におけるこだわり	日常生活でのこだわり
春の運動会	(黄土色)	●	○	黄土色にこだわり人物も地面も黄土色で描く	自分の日直は水曜日、土曜日と言ってこだわる
宿泊学習	(黄土色)	●	○	黄土色にこだわり建物と人物のほとんどを黄土色で描く	順番にこだわり1番、5番にこだわる
臨海学校	(桃色)	●	○	桃色にこだわりプールの水を桃色で描いたが後で青に直す	牛乳パックの日付の位置にこだわる
夏休みの絵	(青)	●	○	青にこだわり人物も全部青で描いている	給食のおかずが多いほうがいいと言ってこだわる
プールおさめ	(桃色)	●	○	桃色と赤にこだわりプールの水を桃色に人物を赤で描く	朝の金の時数等がいいと言ってこだわる
秋の運動会	(黄土色)	●	○	黄土色にこだわり人物を黄土色で描く	丸いのがいいと言ってこだわる
宿泊学習	(黄色)	●	○	黄色にこだわり人物を黄色で描く	テレビのチャンネルで時代劇がいいと言ってこだわる
大山林間学校	(赤)	●	○	赤にこだわり登山道と人物を赤で描く	朝の体力づくりの時早く木から始めると言ってこだわる
文庫運足	(赤)	●	○	赤にこだわり服や人物を赤で描く。しかしこだわりは強くない	生活ノートをボールペンで書くと言ってこだわる
学習発表会	(青)	●	○	青にこだわり音楽や大道具を青で描こうとするがこだわりは強い	音楽の時タンバリンがいいと言ってこだわる

6 考察と反省

K児の描画指導を通して気付いたことは

*こだわりが強い時はまず気持ちを落ち着かせることが大切である。

*こだわりをあまり強く否定しないで余々にこだわりを和らげていくほうが効果的である。

というひとである。このことを踏まえながら今後も描画指導を続けていきたいと思うが、あまりにこだわりにとらわれてK児の表現活動を萎縮させないように気を付けながら指導を続け、日常生活の面でもこだわりを押しえてみんなと一緒に行動できるようにさせていきたいと考えている。